

Nerhol

種蒔きと烏

Misreading Righteousness

作品リスト | List of Exhibition Works

2025年7月12日土—10月13日月・祝

埼玉県立近代美術館

The Museum of Modern Art, Saitama

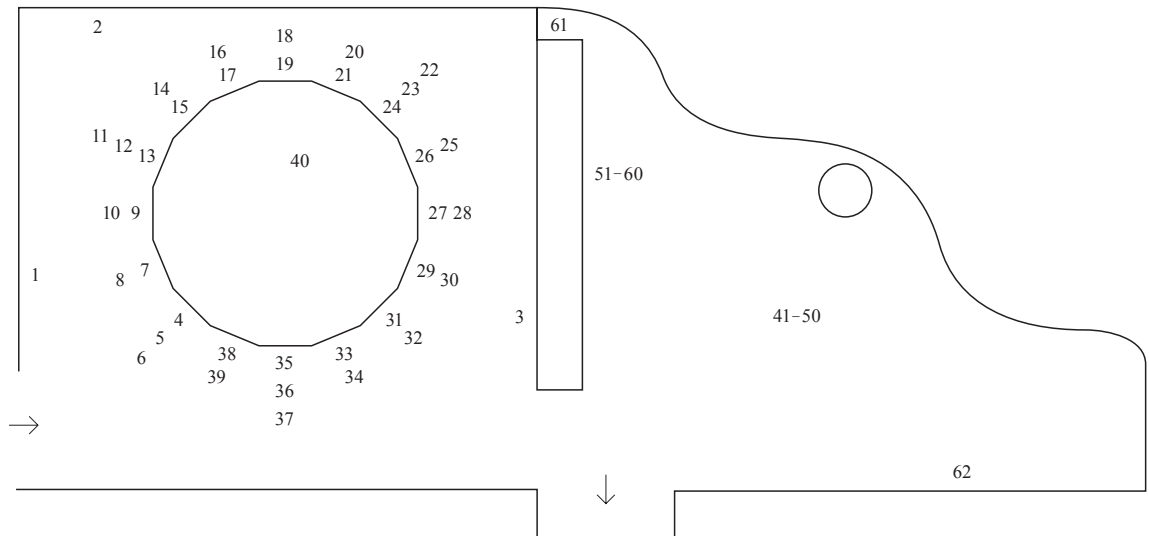
[凡例]

- 掲載順は作品番号、作品名、制作年、技法・素材、サイズとした。
- サイズ表記は縦×横 (mm)、もしくは高さ×幅×奥行き (mm) の順である。
- 出品作品はすべて作家蔵である。

[Notes]

- Information provided for each work appears in following order:
list number, title in Japanese | English (where applicable), year, medium, dimensions (height × width × depth).
- All works are from the collection of the Nerhol.

展示室B



展示室B | Gallery B

1

Mayim Mayim

2025

インクジェットプリント |

Layers of inkjet prints |

Canon Pro-6000S

910 × 1260 × 5 mm

2

Piano sonata 02

2025

インクジェットプリント |

Layers of inkjet prints |

Canon Pro-6000S

616 × 799 × 5 mm

-

ピアニストの手元を写した映像から切り出した静止画を素材にした対作品で、時代も地域も異なる2人の演奏者は映像内で同じ楽曲（ソナタ）を演奏している。

カッターや鑿、ヤスリ、グラインダーなどさまざまな工具を用いて生み出された複雑な起伏と余白的な造形は、映像に記録された演奏の時系列的整合や連続性を崩し、残像や記憶の中の行為のように入り混じり錯綜する時間軸を生み出している。時間と空間の隔たりを超えて接近する二つのイメージをつうじて、同一性と差異、一回性と再現性への思考が促される。

3

Piano sonata 01

2025

インクジェットプリント |

Layers of inkjet prints |

Canon Pro-6000S

618 × 798 × 5 mm

4

carve out / E.M 287a

2023

レーザープリント | Layers of laser prints |

Fuji Xerox Docuprint C4000

196 × 110.5 × 3 mm

-

〈carve out〉はイギリスの写真家エドワード・マイブリッジ（1830-1904）が考案した装置によって撮影された連続写真を素材としたシリーズ作品である。人物や動物のさまざまな動きを記録した、十数枚から多いものでも20枚ほどの連続写真。Nerholはパブリックドメインとなったその連続写真を一枚ずつ出力し積み重ね、イメージを彫り崩すように作品化している。

このシリーズを発表した2023年の個展のタイトル「Zoe」は、連続写真より前に発明された「ゾートロープ（zoetrope）」（回転のぞき絵＝回転によって静止画を素早く入れ替え、あたかも動いているかのように見せる器具）を参照したものである。マイブリッジもまた、連続写真の成功後も

研究を重ね、円盤状のガラスのプレートに連続した写真スライドを並べ、これを回しながら投影する装置「ズープラキスコープ（zoopraxiscope）」を開発した。連続撮影の限定的なシーケンスをまるで生きているかのように錯覚させるこの装置は、当時の人々に衝撃を与えた。

人間の認知を更新する科学技術の発達とその交代の歴史に関心を寄せるNerholは、回転する円筒に描かれた断続的なイメージをスリットから覗きこむ「ゾートロープ」の構造を反転させ、円形の仕子の周囲をまわりながら作品を見るしつらいを用意した。マイブリッジが連続写真に定着させた時間と、それを重ねて彫り進めることで生じた時間軸、それに対する鑑賞者の能動的な関与。それらの接面に現代からの応答の可能性が託されている。

5

carve out / E.M 631a

2023

レーザープリント |

Layers of laser prints |

Fuji Xerox Docuprint C4000

174.5 × 224 × 3 mm

6
carve out / E.M 481
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
194.5 × 136 × 3 mm

7
carve out / E.M 143a
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
224 × 108.5 × 3 mm

8
carve out / E.M 287b
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
196 × 104.5 × 3 mm

9
carve out / E.M 52
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
252 × 153 × 3 mm

10
carve out / E.M 143a
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
401 × 194 × 3 mm

11
carve out / E.M 631b
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
224 × 120 × 3 mm

12
carve out / E.M 152b
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
224 × 110 × 3 mm

13
carve out / E.M DT6807b
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
214 × 155.5 × 3 mm

14
carve out / E.M BPLFb
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
224 × 94 × 3 mm

15
carve out / E.M 386
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
252 × 159.5 × 3 mm

16
carve out / E.M 143b
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
224 × 113.5 × 3 mm

17
carve out / E.M 206c
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
224 × 94 × 3 mm

18
carve out / E.M DT6807a
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
215.5 × 155 × 3 mm

19
carve out / E.M BPLFa
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
224 × 94 × 3 mm

20
carve out / E.M 177
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
196 × 123.5 × 3 mm

21
carve out / E.M 15b
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
252 × 120 × 3 mm

22
carve out / E.M 49b
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
224 × 144.5 × 3 mm

23
carve out / E.M 233a
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
252 × 160 × 3 mm

24
carve out / E.M 755a
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
252 × 127 × 3 mm

25
carve out / E.M DT6807c
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
210 × 155 × 3 mm

26
carve out / E.M 206b
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
224 × 102 × 3 mm

27
carve out / E.M 206a
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
224 × 106 × 3 mm

28
carve out / E.M 733
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
155.5 × 214 × 3 mm

29
carve out / E.M 233c
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
252 × 157 × 3 mm

30
carve out / E.M 163b
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
280 × 95 × 3 mm

31
carve out / E.M 143c
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
224 × 102.5 × 3 mm

32
carve out / E.M 163a
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
212.5 × 155.5 × 3 mm

33
carve out / E.M 38a
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
206.5 × 155 × 3 mm

34
carve out / E.M 197
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
401 × 252 × 3 mm

35
carve out / E.M 187
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
238 × 174.5 × 3 mm

36
carve out / E.M 49a
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
224 × 128.5 × 3 mm

37
carve out / E.M 596b
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
224 × 107.5 × 3 mm

38
carve out / E.M 152a
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
224 × 111 × 3 mm

39
carve out / E.M 38b
2023
レーザープリント |
Layers of laser prints |
Fuji Xerox Docuprint C4000
196.5 × 155 × 3 mm

40
Flash
2025
インクジェットプリント |
Layers of inkjet prints |
Canon Pro-6000S
705 × 956 × 3 mm

41
connecticut C
2025
珪化木、金属（2点組） |
Petrified wood, metal (set of 2)
サイズ可変 | Dimension variable
-

地中に埋もれた樹木に膨大な時間をかけて珪酸成分が浸透し石化した物質、いわば「木の化石」が珪化木である。Nerholは2022年から継続してこの素材を制作に用いている。

過去にNerholは、二人が各々の活動で用いてきた紙（印刷物）の原料としての樹木に注目し、伐採された街路樹をモチーフにした作品《multiple-roadside tree》（2016）を制作している。珪化木はその関心の持続と展開を示しつつ、作品が射程に収める時間のレンジははるかに長くなっている。長いものでは数千万年から数億年という悠久の時間を封じ込めた珪化木の内部への想像を喚起するように、年輪面が露出するように二つに切断した後、再度その断面を接合したり、切断面を伏せた状態で床に配置したりといった制作・展示方法が試されてきた。

本展ではその新たな展開として、珪化木の切断面に溶かした錫を流し入れ、美しく石化した年輪面を金属で覆い隠した作品が制作された。鏡面仕上げの金属面は覗き込む鑑賞者の姿や周囲の風景を映し出し、遠く隔たった二つの時間軸の境界面を形成する。

42
connecticut D
2025
珪化木、金属（2点組） |
Petrified wood, metal (set of 2)
サイズ可変 | Dimension variable

43
connecticut E
2025
珪化木、金属（2点組） |
Petrified wood, metal (set of 2)
サイズ可変 | Dimension variable

44
connecticut F
2025
珪化木、金属（2点組） |
Petrified wood, metal (set of 2)
サイズ可変 | Dimension variable

45
connecticut G
2025
珪化木、金属（2点組） |
Petrified wood, metal (set of 2)
サイズ可変 | Dimension variable

46
connecticut H
2025
珪化木、金属（2点組） |
Petrified wood, metal (set of 2)
サイズ可変 | Dimension variable

47
connecticut I
2025
珪化木、金属（2点組） |
Petrified wood, metal (set of 2)
サイズ可変 | Dimension variable

48
connecticut J
2025
珪化木、金属（2点組） |
Petrified wood, metal (set of 2)
サイズ可変 | Dimension variable

49
connecticut K
2025
珪化木、金属（2点組） |
Petrified wood, metal (set of 2)
サイズ可変 | Dimension variable

50
connecticut L
2025
珪化木、金属（2点組） |
Petrified wood, metal (set of 2)
サイズ可変 | Dimension variable

51
Representation No.005
2025
鏡 | Mirror
915 × 610 × 10 mm
-
鏡の特性を持つ作品には、重ねた鏡面紙を細かく等高線様にカットした《Coexistence》（2012）や、ミラーフィルムにカッターで夥しい刻みを加えた〈Representation〉シリーズ（2018-）などがあり、Nerholが持続的な思考を重ねてきた素材である。
〈Representation〉シリーズの新作として初めて実物の鏡を用いた本展出品作では、前に立つ人物の姿や周囲の風景はこれまでよりはるかに明瞭になる一方、割り刻まれ起伏がつけられた表面によって、それらのイメージは無数の像に分裂し再-表象 (re-presentation) を繰り返す。鑑賞者が存在する世界の多層的なあり様への気づきを促す、表現の深化といえる。

52
Representation No.006
2025
鏡 | Mirror
915 × 610 × 10 mm

53
Representation No.007
2025
鏡 | Mirror
915 × 610 × 10 mm

54
Representation No.008
2025
鏡 | Mirror
915 × 610 × 10 mm

55
Representation No.009
2025
鏡 | Mirror
915 × 610 × 10 mm

56
Representation No.010
2025
鏡 | Mirror
915 × 610 × 10 mm

57
Representation No.011
2025
鏡 | Mirror
915 × 610 × 10 mm

58
Representation No.012
2025
鏡 | Mirror
915 × 610 × 10 mm

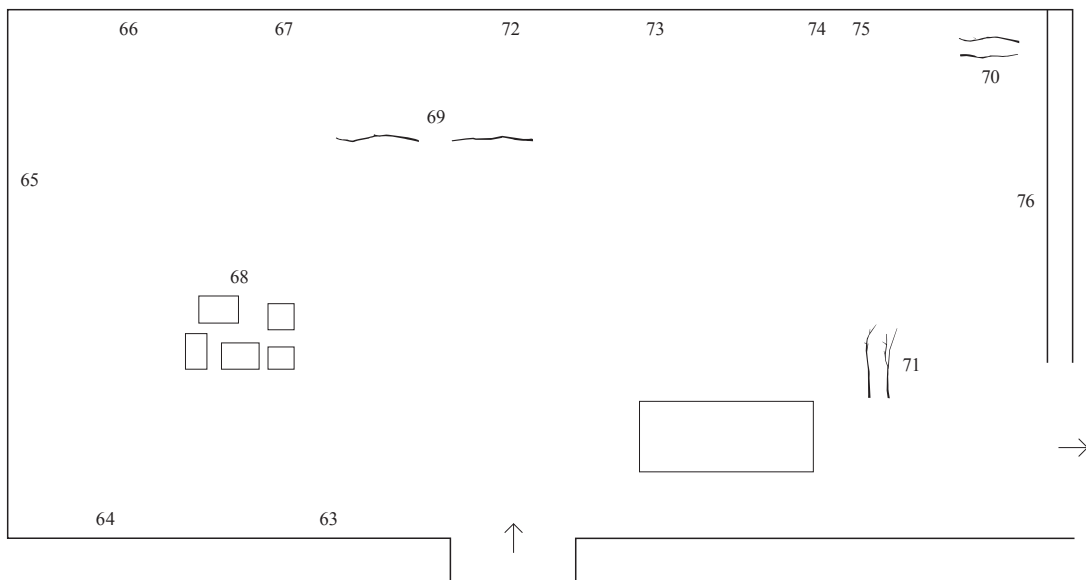
59
Representation No.013
2025
鏡 | Mirror
915 × 610 × 10 mm

60
Representation No.014
2025
鏡 | Mirror
915 × 610 × 10 mm

61
Representation No.003
2025
鏡 | Mirror
400 × 300 × 20 mm

62
Representation No.004
2025
鏡 | Mirror
400 × 300 × 10 mm

展示室C



展示室C | Gallery C

63

Hidden crevasse No.005

2025

インクジェットプリント、ステンレス、
アルミ、ベニヤ |

Layers of inkjet prints, stainless steel,
aluminum, plywood |

Canon TZ-32000

2088 × 1832 × 50 mm

-

シロツメクサを作家自身が撮影した動画から
2万枚を超える静止画像を出力し、任意の
位置で裁断した断面が開示されている。
動画そのものは数十秒の長さであり、そこから
切り出された夥しい画像（の断面）が形作る
ノイズのような色の集積は、人間の感覚器官で
知覚しうる閾値をはるかに超えた精細度を
有している。

シロツメクサは、江戸時代にオランダから
ガラス製品を輸入する際の緩衝材として
使われたことで日本に持ち込まれ根付いた
植物で、本作はNerholの帰化植物への
持続的な関心の延長上に位置づけられる。
従来の帰化植物をモチーフにした作品に
おける、静止画の積層を手前から奥に彫り
進む能動的な造形行為が、世界の複雑な
事象とその関係性を考察する術であると
すれば、「それを横から見たらどう見えるか」
という疑問を起点とする本作は、これまで

把握できなかった不可知の領域の存在と、
そこに接近するための視点の転換を示して
いる。Nerholにとって作品制作とは、
見えない世界を見つめるための方法と技術の
探究にほかならず、その飽くなき継続の
現在地を示す新機軸である。

64

Hidden crevasse No.001

2025

インクジェットプリント、ステンレス、
アルミ、ベニヤ |

Layers of inkjet prints, stainless steel,
aluminum, plywood |

Canon TZ-32000

2315 × 1821 × 50 mm

65

Hidden crevasse No.003

2025

インクジェットプリント、ステンレス、
アルミ、ベニヤ |

Layers of inkjet prints, stainless steel,
aluminum, plywood |

Canon TZ-32000

2288 × 1836 × 50 mm

66

Hidden crevasse No.002

2025

インクジェットプリント、ステンレス、
アルミ、ベニヤ |

Layers of inkjet prints, stainless steel,
aluminum, plywood |

Canon TZ-32000

2255 × 1832 × 50 mm

67

Hidden crevasse No.004

2025

インクジェットプリント、ステンレス、
アルミ、ベニヤ |

Layers of inkjet prints, stainless steel,
aluminum, plywood |

Canon TZ-32000

2293 × 1836 × 50 mm

68
Rock, scissors, papers
ストーンペーパー | Stone paper
サイズ可変 | Dimension variable
-
石灰石から抽出された無機鉱物粉末を原料とするストーンペーパーを数千枚積み上げた巨大な量塊と、そこから削り出された無数の切片。積層に鑿を入れ切片を切り出す行為は紛れもなく彫刻的な所作だが、その行為が造形的な到達点をめざすものではないことにこそ注目すべきだろう。鑿の痕跡が連なり複雑な起伏をなす量塊と、鑿によって切り出された切片、本作においてはそのいずれもが彫刻といえる。作品として成立するものとその残余との境界、あるいはその交換可能性は、Nerholの制作における継続的な関心事のひとつである。

また、積層から切り出された切片はときにばらばらと紙の状態に戻り、量塊がごく薄い紙の集積であることを露わにする。彫刻的所作によって量塊から断片へ、そして薄い一枚の紙へと状態は遷移するが、それを単線的な移行ではなく、循環的・円環的な関係ととらえる視座が、三すくみの関係を示す作品タイトル「rock, scissors, papers」（＝グー、チョキ、パー）に託されている。

69
branch 1
2024
木 | Wood
2240 × 300 × 495 mm (each)
-
対になって床に置かれた木の枝は、近づいてみると数センチ単位に輪切りにされ、再度つなぎ合わされたものであることがわかる。一本の枝を細かく切断し交互に振り分け接合することで、元々の枝の特徴を留めた、しかしそれとは異なる新たな形状の二本の枝が形作られているのである。

切断と継ぎ接ぎが示すのは樹木の生きた時間の断続的な連続であり、その意味で二本の枝は相互補完的な関係にある。一つの事象を異なる次元から見るものの可能性や、ある認知が同時に捨象するものへの関心など、作家の制作を駆動してきた問題意識が静かに発露している。

70
branch 3
2025
木 | Wood
1450 × 400 × 220 mm (each)

71
branch 4
2025
木 | Wood
1250 × 400 × 600 mm (each)

72
Cornus florida linn
2025
インクジェットプリント | Layers of inkjet prints | Canon Pro-6000S
1500 × 1100 × 10 mm
-
自生地から日本国内に持ち込まれ、野生化した外来種の植物を総称して「帰化植物」と呼ぶ。2020年以降、Nerholは帰化植物をモチーフにした作品を多数制作しており、本展のための最新作ではハナミズキを取り上げている。作品タイトルはその学名で、「アメリカヤマボウシ」という標準和名のとおり北米原産の植物である。1912年に東京市（当時）がワシントンD.C.に贈ったソメイヨシノの苗木の返礼として、3年後にアメリカから贈呈された60本の原木が、この種の日本における植栽の始まりである。本作は、その原木のうち唯一現存する、東京都立園芸高校内に植樹された1本を作家自身が撮影した動画を素材としている。

贈呈から100年余の間にハナミズキは植生を拡大し、今日ではもっとも数多く植えられる街路樹のひとつとなっている。明確な意思と目的のもと移動させられた植物が、ひろく親しまれる一方で個別的な存在や歴史的背景を顧みられることの稀な街路樹として定着した経緯には、人為と因果が幾重にも絡み合っている。

風に揺れる花を撮影した数十秒の動画のシークエンスは、静止画の積層として彫り刻まれることで、移動と繁殖を繰り返し紡がれる種としての生と、その歴史的背景が重なり合う時空間へ開かれてゆく。世界をその複雑さのまま掬い上げようとする、Nerholの方法によってしかなしえない特異な造形といえる。

73
Cornus florida linn
2025
インクジェットプリント | Layers of inkjet prints | Canon Pro-6000S
1048 × 1400 × 10 mm

74
Cornus florida linn
2025
インクジェットプリント | Layers of inkjet prints | Canon Pro-6000S
1500 × 1100 × 10 mm

75
Cornus florida linn
2025
インクジェットプリント | Layers of inkjet prints | Canon Pro-6000S
1500 × 1100 × 10 mm

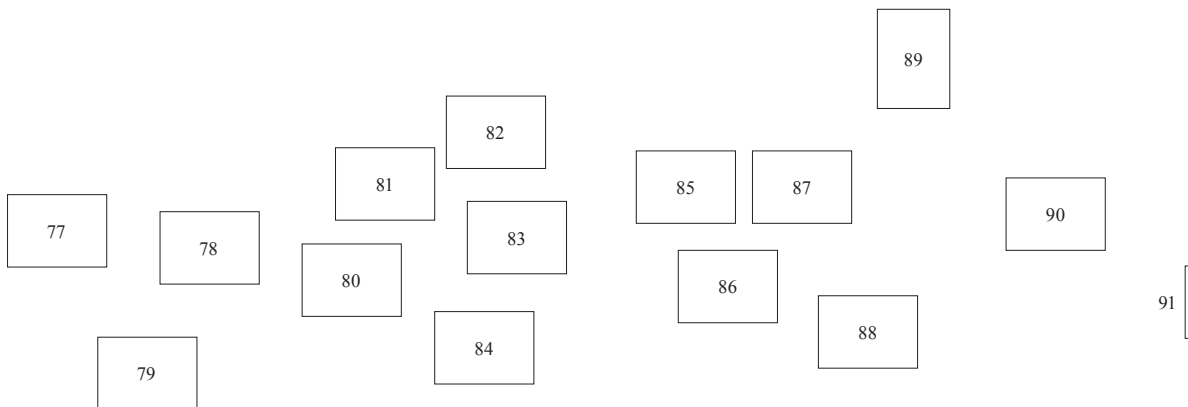
76
Cornus florida linn
2025
インクジェットプリント | Layers of inkjet prints | Canon Pro-6000S
2300 × 3050 × 10 mm

77
ttte 002
2025
ポストカード | Postcard
277 × 347 mm
-
製作された時代も地域もまったく異なる2枚のポストカードを重ね合わせ、表面をニードルで削ったり印刷面を剥がしたり、穴を開けたりすることで、2つのイメージを画面上で繋げている。

ハナミズキと桜が同じ枝に咲き、船舶の吐く煙が火山の噴煙と化し、洞窟の内部が山々の稜線に連なる。画面上から情報を削ぎ落していくことで、遠く隔たった時空間や事象が接続する可能性が生起するというNerholの制作行為の両義的な特質を端的に示しつつ、その視覚的な諧謔性がしなやかな思考のレッスンともなるシリーズである。

78
ttte 003
2025
ポストカード | Postcard
277 × 347 mm

79
ttte 004
2025
ポストカード | Postcard
277 × 347 mm



80
ttte 005
2025
ポストカード、写真 | Postcard, photograph
277 × 347 mm

81
ttte 006
2025
ポストカード | Postcard
277 × 347 mm

82
ttte 007
2025
ポストカード | Postcard
277 × 347 mm

83
ttte 008
2025
ポストカード、写真 | Postcard, photograph
277 × 347 mm

84
ttte 009
2025
ポストカード | Postcard
277 × 347 mm

85
ttte 010
2025
ポストカード | Postcard
277 × 347 mm

86
ttte 011
2025
ポストカード、写真 | Postcard, photograph
277 × 347 mm

87
ttte 012
2025
ポストカード | Postcard
277 × 347 mm

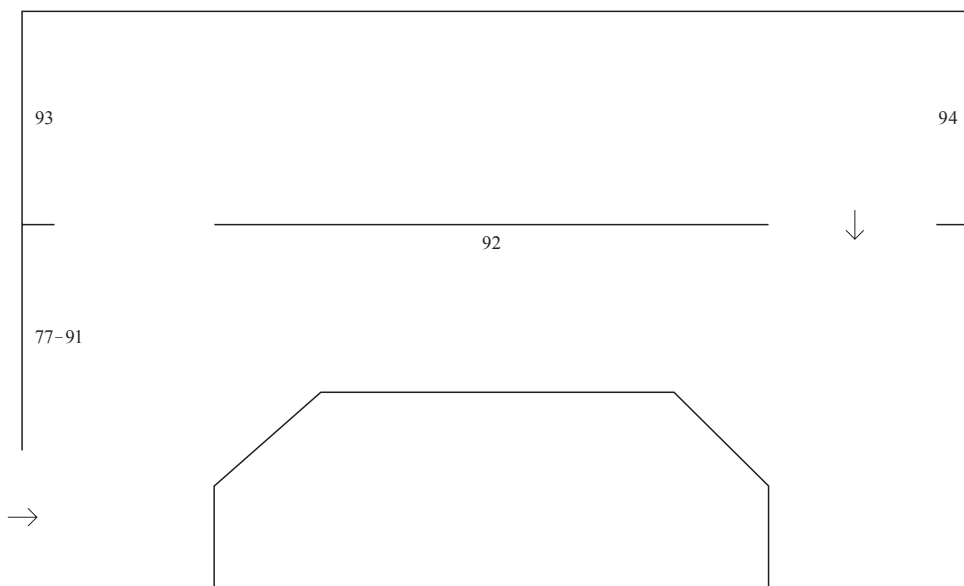
88
ttte 013
2025
ポストカード | Postcard
277 × 347 mm

89
ttte 014
2025
ポストカード | Postcard
347 × 277 mm

90
ttte 015
2025
ポストカード | Postcard
277 × 347 mm

91
ttte 016
2025
ポストカード | Postcard
277 × 347 mm

展示室D



92

種蒔きと鳥 Misreading Righteousness |

Seeding and crows:

Misreading Righteousness

2025

10,000枚のポストカード | 10,000 postcards

サイズ可変 | Dimension variable

—

手漉きの阿波和紙で作ったポストカード

10,000枚を床に積み上げたインスタレーション作品。本展タイトルにもなった《種蒔きと鳥》は、努力が徒労に終わることを意味する

「権兵衛が種まきカラスがほじくる」に着想したもので、白と黒のポストカードはそれぞれ権兵衛と鳥を表す。鳥が畑から掘り出して食べた種が別の地に運ばれ芽吹くのであれば、無駄になったというのも一面的な見方に過ぎず、正しさは相対的で常に反転しうる。

鑑賞者はインスタレーションからポストカードを一枚持ち帰ることができるが、白と黒どちらのポストカードにもボピーの種が一粒漉き込まれている。そのまま土に埋めてボピーを育てることも、切手を貼ってはがきとして誰かに送ることも可能で、作品は作家の意図を離れ、「誤読」の可能性も肯定しつつ外の世界へ開かれていく。

展示室D | Gallery D

93

Canvas (Oasa)

2025

和紙（麻）、牛膠、杉、塗料 |

Japanese paper (hemp), ox glue, cedar, paint

—

2023年以降、Nerholは作品制作の根幹となってきた紙への探究をより根源的に突き詰め、紙それ自体の制作を手掛けるようになる。紙の起源を繙く中で古代の麻紙にたどり着いたNerholは、その素材に立ち戻るべく、麻の繊維で漉いた紙を細く裁断し、それを撚って作った糸を織機で織る、麻の紙によるキャンバス素材を制作した。キャンバスの表面に鑿やグラインダーを当てる彫刻的行為によってできる痕跡や裂け目は、何かしらのイメージの湧出を期待させずにおかない。過去作では、それに応えるようにキャンバスの織り方を使い分けたり、表面に部分的に膠を塗って微かに光を反射するようにしたりなどの手が加えられている。

一方今回の作品では、特殊な黒い塗料を塗った板が木枠の裏側を塞ぎ、木枠にも同じ塗料が塗られている。紙の積層と同じように鑿をあてることでキャンバスに開けられた穴は、奥行きを感知させない漆黒に沈み、鑑賞者の視線を吸い込み続ける。

94

Flash

2025

インクジェットプリント |

Layers of inkjet prints |

Canon Pro-6000S

2060 × 2803 × 7 mm

[特別協力] 株式会社資料映像バンク

—

日本初の胃カメラは、オリンパス光学工業株式会社の技術者だった杉浦睦夫（1918–1986）、深海正治（1920–2021）らによって1950年に開発された。本作は「ガストロカメラ」と名付けられたこの胃カメラを使用する様子をとらえた記録映像を素材としており、カメラに内蔵されたフラッシュが体内で発光した瞬間を静止画にして彫り込んでいる。

深海は戦時中海軍の技術士官として軍務に就き、零式艦上戦闘機（零戦）の同調発射装置などの設計を担当していたことが知られている。国家の大義としての敵を殺める技術から、人を生かす技術へ。胃の内部を照らすフラッシュの光は、深海にとって蒙きを啓く正しき光であったのだろうか。

種蒔きと烏

何かを生み出す時、思考はまず大地から
考え始め、重力を離れ、宇宙にまで巡っていく。
脳内の思考は、烏が大地に足をつける一瞬の
出来事のように。それは一瞬の黒い羽ばたきと
共に生まれた風のように、すぐに消えてしまう。
飛び立ったその場所には、足跡に混じり別の
種が糞とともに残される。

意味を見出した時点で、相反する二つの
意味が宿る。意味が限定できなければ
純粹に行為として考えられてゆく。
純粹な行為を、自らの行為と同義だと考えると、
社会的に高潔で正しい事だと誤解している。
選択とは日常そのもので特別なことは何もない。
自己の行動の理由を限定して探す事自体が
重要になってしまう。もっと曖昧で複雑な
世界なのに。

時空を創造できない私たちは、架空の時空を
想像し、様々な事象を試す。架空世界は
無垢かつ誤解の塊で、少し傾き回転しながら
チリや埃とともに様々なものを舞い上げ
巻き込みながら本質を見えなくしてしまう。
そんな架空の下地で想像が繰り返されている。

事象の関係は常に見えない。自分勝手に
結びつけあたかもそれが強い関係のように
語ってしまう。烏も種を食べた後、お腹の
中の種のことは考えない。見えないことは
考えない事と同じように。

— Nerhol

